

序

奈良県桜井市に所在する特別史跡山田寺跡は、蘇我倉山田石川麻呂の発願により造営された寺院の遺跡です。山田寺は、石川麻呂の横死により、造営が一時中断した後、天武14年（685）に伽藍が完成しました。治安3年（1023）に高野山参詣の途上、山田寺を参拝した藤原道長は、堂内の飾りつけのすばらしさを「奇偉莊嚴」と感嘆しています。しかし、中世には、土砂崩れや火災などにより堂宇は壊滅し、往時の華やかな伽藍の面影を伝えるものは、基壇の高まりや礎石だけとなってしまいました。

私ども奈良文化財研究所は、この山田寺跡において、1976年から1996年にかけて発掘調査を実施しました。倒壊したままの状態で見られた東面回廊や独特な伽藍配置、特異な金堂の平面は、古代建築史研究の新たな境地を切り開くものでした。また、埴仏や宝物類、瓦、土器など多種多様な遺物が出土しました。それらは、当時の仏教文化を示す稀有な一括資料であり、山田寺の造営過程やその後の変遷をも明らかにするものでした。奈文研ではこうした発掘調査の成果を、1995年には『山田寺出土建築部材集成』、2002年には『山田寺発掘調査報告』として刊行しております。

飛鳥資料館においても、1981年には『山田寺展』1996年には『山田寺東回廊―再現にむけて―』を開催するとともに、1997年からは保存状態のよい回廊3間分を復元的に組み立てて常設展示をしております。

今年の春、山田寺跡出土品は重要文化財に指定されました。今回の秋期特別展では、これを記念して重要文化財指定品を公開し、「奇偉莊嚴」と称えられた山田寺の魅力を、皆様にお伝えしたいと思います。

最後になりましたが、今回の展示にあたり、ご協力賜りました関係者ならびに関係機関の皆様にあつく御礼申し上げます。

平成19年10月19日
独立行政法人 国立文化財機構
奈良文化財研究所 飛鳥資料館
館長 田辺 征夫